

2019年度（2020年3月期） 第1四半期 決算説明会

2019年 7月 30日
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- 2019年度 第1四半期決算
- 2019年度 通期業績予想

2019年度 第1四半期決算 | ハイライト

	2018年度		2019年度		前年同期比				
	(億円)	1Q実績	%	1Q実績	%	増減額	増減率		
売上収益		2,604		2,496		-108	-4.2%		
事業利益		146	5.6%	45	1.8%	-101	-69.2%		
営業利益		134	5.2%	34	1.4%	-100	-74.6%		
税引前利益		143	5.5%	28	1.1%	-114	-80.0%		
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		111	4.3%	2	0.1%	-109	-97.8%		
EPS ^{*1} (円)		31.70		0.71					
為替レート (円、指数)	USD	¥109.06		¥109.93					
	EUR	¥130.09		¥123.54					
	その他通貨 ^{*2}	100		95					
<small>*1 EPS: 基本的1株当たり当期利益 *2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前年同期を100とした指数</small>				前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
				売上収益		+6	-19	-38	-51
				事業利益		-2	-11	-18	-31

3

- 2019年度 第1四半期の実績についてご説明します。
- 売上収益は、前年同期比 108億円 減収の 2,496億円、事業利益は、101億円 減益の 45億円、四半期利益は、109億円 減益の 2億円 となりました。
- 当四半期の為替変動による影響額は、売上収益で 51億円 のマイナス、事業利益で 31億円 のマイナスとなりました。

◆ 好調であった前年同期から外部環境が悪化

- 中国を中心に世界各地の経済活動は停滞
- EUR、中国人民元、エマージング地域の通貨に対して円高に推移

◆ 売上収益

- マクロ環境変化の影響を受け主要事業で減収
 - 大容量インクタンクモデルは、アジア市場の停滞により前年同期並み
 - プロジェクターは、需要が旺盛であった前年同期から減少
 - ロボットやマイクロデバイス他は中国を中心に需要減退
- 期初予想に対して、一部の事業・商品は弱含んで推移

◆ 事業利益

- 減収影響に加え、成長に向けた費用の増加により減益

➢ 第1四半期決算のポイントについてご説明します。

➢ 外部環境は、好調であった前年同期から大きく悪化しています。

➢ 米中貿易摩擦を契機に、中国を中心に世界各地の経済活動は停滞し、また、インドやインドネシアなどでは総選挙前後の政治・経済情勢の変化により、一時的な需要の低下なども見られました。

➢ 為替レートは、EURや中国人民元、エマージング地域の通貨に対して、円高で推移し、プリンティングソリューションズ、ビジュアルコミュニケーションを中心に、エプソンの業績にマイナスの影響を与えました。

➢ このような中、売上収益は主要事業で減収となりました。

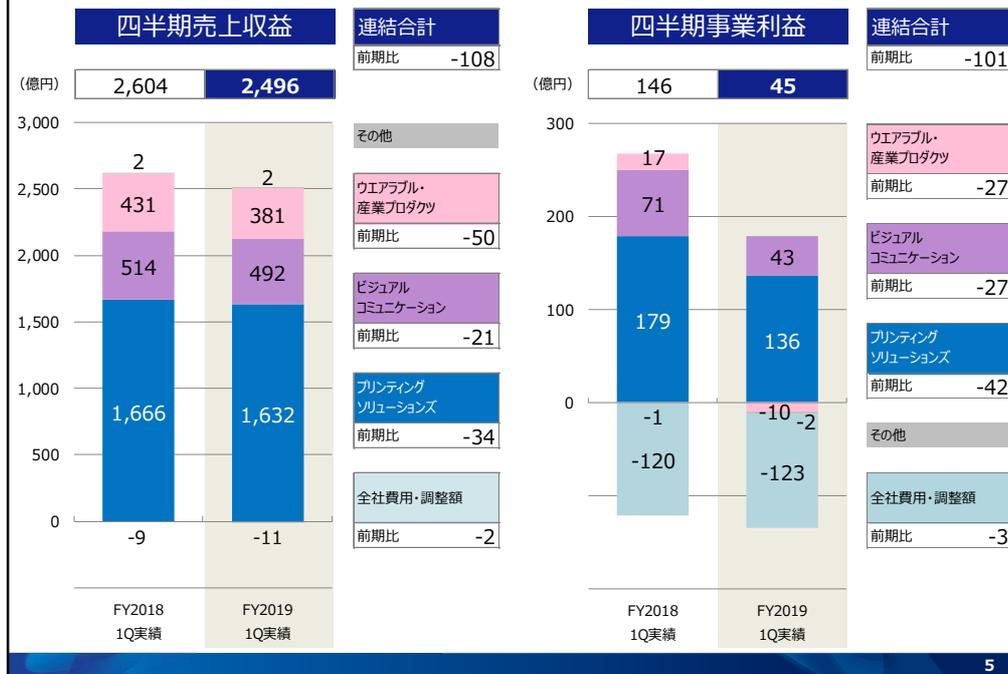
➢ 大容量インクタンクモデルは、アジア市場の停滞により、合計で前年同期並みに留まったことに加え、プロジェクターは、サッカーワールドカップ開催にともなう需要が旺盛であった前年同期から減少し、また、ロボットや半導体、水晶デバイスなどで、中国を中心に需要減退が継続しました。

➢ これらの動向は、期初予想に織り込んでいましたが、大容量インクタンクモデルやロボットなどは、予想に対しても弱含んで推移しました。

➢ 事業利益は、外部環境の悪化による減収影響に加え、成長に向けた費用の増加もあり、減益となりました。

➢ なお、期初予想の前提となる社内計画に対しては、事業利益は10億円程度の未達となりましたが、このうちの半分程度は、EURなどが予想の前提に対して円高に推移したことによる影響です。

2019年度 第1四半期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、当第1四半期におけるセグメント別の売上収益、事業利益の前年同期比較です。
- 以降のスライドで、セグメントごとの詳細をご説明します。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2018年度 1Q実績	2019年度 1Q実績	前年 同期比	
売上収益	1,666	1,632	-34	◆ IJP: ・ SOHO・ホーム向けインクカートリッジモデル本体・インク減少 ・ 大容量インクタンクモデルは先進国で拡大するも、アジアが市場停滞により減少し、前年同期並み ◆ SIDM: ・ 中国中心に需要減少 ◆ 商業・産業IJP: ・ サイネージ・テキスタイル・ラベル向け増加 ◆ POSプリンター: ・ イタリアでの税制改定に伴う需要獲得
プリンター	1,163	1,081	-82	
構成比 IJP	82%	82%		
SIDM	9%	8%		
その他	9%	10%		
プロフェッショナルプリンティング	462	492	+29	
その他	40	58	+18	
事業間売上収益	-0	-0	+0	
セグメント利益	179	136	-42	
セグメント利益率	10.8%	8.4%		

6

- プリンティングソリューションズの前年同期比較は、ご覧の通りです。
- プリンター事業は、減収となりました。
- インクジェットプリンターは、大容量インクタンクモデルとオフィス共有IJPは前年同期並みの売上収益となりましたが、SOHO・ホーム向けのインクカートリッジモデル本体やインクが減少しました。
- 大容量インクタンクモデルの地域別販売数量の状況をご説明します。
先進国では前年同期から大幅に増加し、また、昨年度後半は前年同期割れとなっていた中南米は、市場の停滞が継続する中でも前年同期並みを確保しました。
一方で、中国は、需要が旺盛で、チャンネルへのセルインも先行していた前年同期に対して減少したことに加え、インドやインドネシアで、総選挙前後の需要が停滞していたことなどにより、アジア向けが減少し、全体では前年同期並みの販売数量となりました。
なお、昨年度から、競合他社の拡販の動きも強まっておりますが、エプソンも必要な対応を実施しており、主要国の販売数量に対して大きな影響は発生していません。
- SIDMは、中国向けを中心に販売数量が減少し、減収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、増収となりました。
- 商業・産業IJPは、サイネージ、テキスタイルなどを中心に、順調に販売が拡大しました。
また、POSプリンターは、イタリアの税制改定に伴う需要獲得などにより増加しました。
- その他の増収は、OS切り替えに伴うPCの更新需要を取り込んだものです。
- セグメント利益は、プリンター事業での減収影響に加え、費用投入が先行していることで、減益となりました。
- なお、セグメント利益のうち、プリンター事業が占める割合は、2割半ば程度となりました。
- 期初予想の前提となる社内計画に対しては、
大容量インクタンクモデルが、インドやインドネシアなど、アジアを中心に未達となりました。
それ以外の商品は、多少の強弱はありますが、大きな差異は発生していません。
- セグメント利益は、売上未達の一方で、費用の執行時期を見直したことで、計画通りとなりました。

(億円)

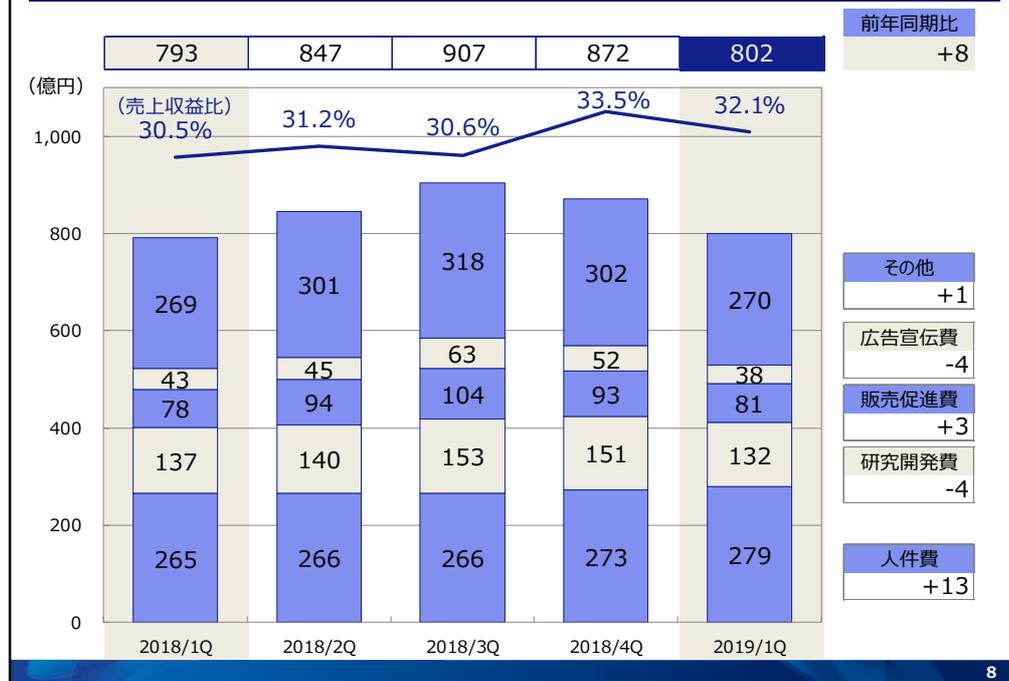
ビジュアルコミュニケーション	2018年度 1Q実績	2019年度 1Q実績	前年 同期比	◆ プロジェクター： ・ 需要が旺盛であった前年 同期に対して販売数量減少
売上収益	514	492	-21	
セグメント利益	71	43	-27	
セグメント利益率	13.9%	8.9%		

(億円)

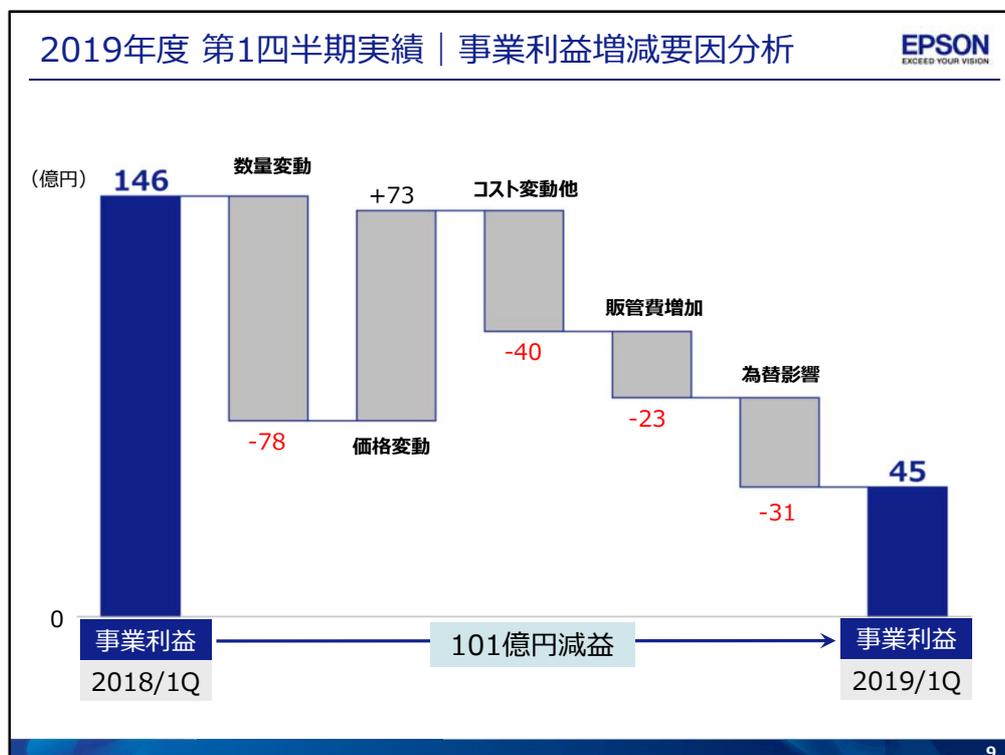
ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 1Q実績	2019年度 1Q実績	前年 同期比	◆ ウォッチ： ・ 高価格帯ウォッチ好調 ・ 中・低価格帯ウォッチ、 ムーブメントの需要減少 ◆ ロボット： ・ 好調であった前年同期に対し、 中国・欧米などで投資が減退 ◆ 水晶デバイス： ・ 民生機器向けを中心に減少 ◆ 半導体： ・ ファンドリなどで需要減少
売上収益	431	381	-50	
ウェアラブル機器	123	112	-11	
ロボティクスソリューションズ	74	49	-24	
マイクロデバイス他	249	234	-15	
事業間売上収益	-16	-15	+0	
セグメント利益	17	-10	-27	
セグメント利益率	4.1%	-2.7%		

- ビジュアルコミュニケーションは、サッカーワールドカップ開催にともない、需要が旺盛であった前年同期に対して、販売数量が減少したことで、減収となりました。
- セグメント利益は、減収影響に加え、ラインアップ強化費用の増加などにより、減益となりました。
- 社内計画に対しては、売上収益は計画通りとなりましたが、セグメント利益は、費用の執行時期を見直したことなどにより計画を上回りました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、減収となりました。
- ウェアラブル機器は、高価格帯ウォッチは好調を維持しましたが、中・低価格帯ウォッチやムーブメントの需要が低調に推移しました。
- ロボティクスソリューションズは、好調であった前年同期に対して中国向けが大きく減少し、また、欧米などでも投資の削減や先送りが見られたことで、前年同期から減少しました。
- マイクロデバイス他は、半導体のファンドリや水晶デバイスの民生機器向けを中心に需要が低調に推移しました。
- セグメント利益は、減収影響により、減益となりました。
- 社内計画に対しては、売上収益および事業利益とも、未達となりました。

販売費および一般管理費 主要科目別推移

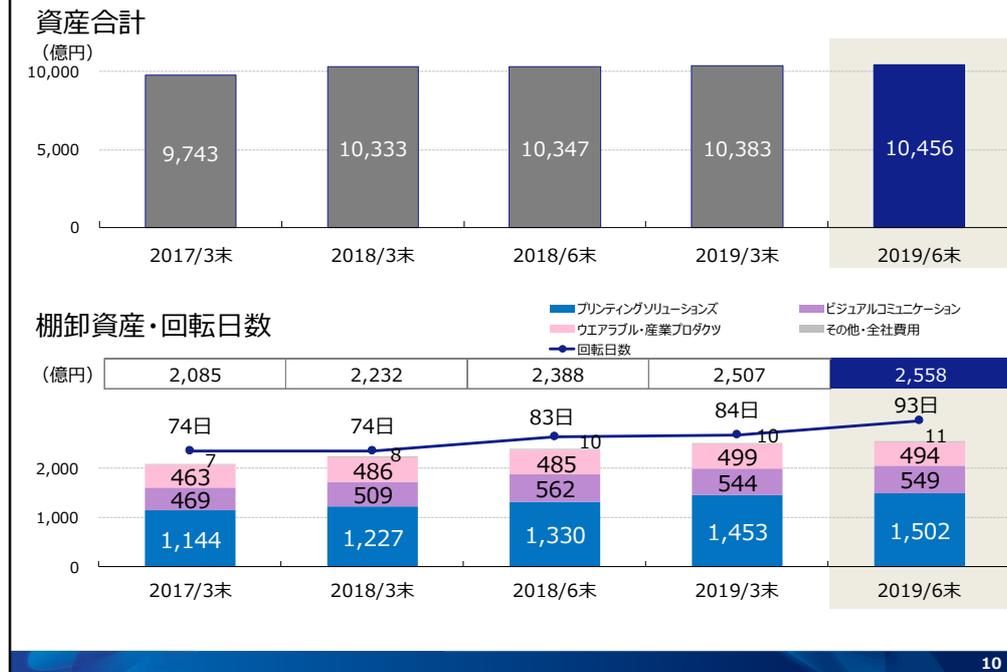


- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- BtoBビジネス拡大に向けて、継続的に販売体制強化を実施していることなどにより、人件費は増加しましたが、広告宣伝費、販売促進費、研究開発費などは、注力分野への費用投下の一方で、BtoC分野で削減を進めました。



- 事業利益の増減要因分析は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、大判プリンター、POSプリンターなどでプラスとなりましたが、インクカートリッジ、プロジェクター、ロボット、半導体などのマイナスが上回りました。
- 価格変動は、プロジェクター、POSプリンター、半導体でのモデルミックス変動などのプラスがありました。
なお、大容量インクタンクモデルは、価格対応の実施はあるものの、先進国比率の増加やモデルミックス変動などにより、大きな価格変動影響はありません。
- コスト変動他は、インクカートリッジモデル本体の生産減少に伴う費用の減少はありますが、大容量インクタンクモデルやプロジェクターなどの高付加価値商品の拡大に伴ったコストの増加などにより、マイナスとなりました。

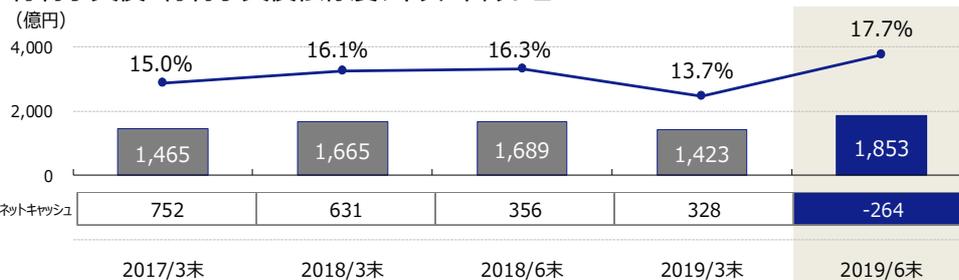
財政状態計算書 主要項目推移



- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、現金及び現金同等物が有形固定資産・無形資産の取得や配当金の支払などにより減少したことに加え、売上債権及びその他の債権が減少した一方で、新会計基準の適用などによる有形固定資産の増加、棚卸資産の増加などにより、前期末に対して72億円増加し、10、456億円となりました。
- 棚卸資産は、前期末に対して51億円増加し、2、558億円となりました。
- これは、大容量インクタンクモデルで、アジア地域などでの販売未達影響や、先進国での販売拡大に向け、生産を先行させているために在庫が増加していることによります。
- 在庫の増加に関しては、重要な経営課題と認識しておりますので、第2四半期以降、削減に向けて手を打って行きます。

財政状態計算書 主要項目推移

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



- 有利子負債は、社債の減少の一方で、借入金の増加に加え、新会計基準の適用によりリース負債分が有利子負債に含まれたことなどにより、前期末に対して 429億円増加の、1,853億円となり、資産合計の有利子負債依存度は 17.7%となりました。
- ネットキャッシュは、有利子負債の増加に加え、自己株式取得により現預金が減少していることで、264億円のマイナスとなりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、配当金の支払、円高進行にともなう海外子会社資本の換算差や、自己株式の取得などにより、前期末に対して244億円減少し、5,156億円となり、親会社所有者帰属持分比率は、49.3%となりました。

- 2019年度 第1四半期決算
- 2019年度 通期業績予想

**◆ 厳しい外部環境の継続が見込まれるものの、
通期業績予想を据え置く****◆ 売上収益**

- 戦略商品の伸長により前期比増収を目指す

◆ 事業利益

- 前期比で、為替のマイナス影響(約50億円) や
前期末に実施したプリントヘッド部品の在庫評価減計上方法変更
による一過性の利益(54億円)は発生しないことなどにより減益

◆ 利益創出に向けた事業オペレーション

- 需要の変化に備えた販売や生産対応の実施
- 総原価低減活動による利益創出
- 商品ポートフォリオ見直しと経営資源の戦略分野への集中

- 2019年度通期業績予想のポイントについてご説明します。
- エプソンを取り巻く外部環境は、厳しい状況の継続が見込まれますが、環境変化への対応を実施することで、業績予想を据え置きます。
- 売上収益や事業利益の前提は、期初予想から変更ありません。
- 通期業績予想の達成に向けては、先行きが不透明な中での事業運営が継続しますので、これまで以上に利益創出に向けた事業オペレーションに取り組んでいきます。
- 需要の変化に備えた販売や生産対応については、在庫の管理ポイントや管理サイクルを見直すとともに、地域ごとの目標在庫水準を引き下げるなど、厳しい環境が継続する前提で事業オペレーションを実施します。
また、コストダウンや合理化などの総原価低減活動を実施し、より一層の利益創出に努めます。
- さらには、中期経営計画でも掲げた商品ポートフォリオの見直しと戦略分野への経営資源の集中と効率化に向けた活動も進めています。
- これらにより、中期的な成長に向けた取り組みを進めながらも、今期の業績目標達成を図っていきます。

◆ 大容量インクタンクモデル新商品の投入、販売プロモーション・訴求活動の強化



(10月日本発売予定)

EW-M752T
お求めやすい本体価格と
低印刷コストの両立



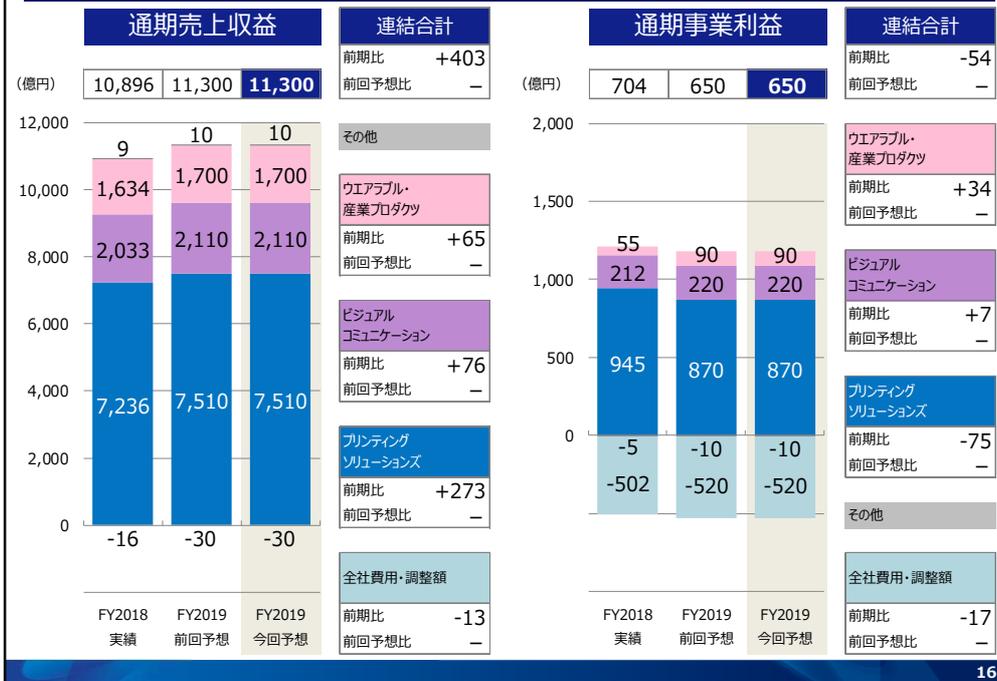
北米向けWebサイト
Shaquille O'Neal 氏
元プロバスケットボール選手を起用

- ◆ オフィス共有IJPは、業種別ソリューション提案展開とディーラー網の整備を進める
- ◆ 商業・産業IJPは、サインージ・テキスタイル・ラベル分野の成長を継続
- ◆ レーザー光源搭載プロジェクターのラインアップ拡充による成長継続
- ◆ ロボット需要の確実な獲得と自動化要求に応えるソリューション提案

15

- 戦略商品の拡大に向けた取り組みをご説明します。
- 強化地域である、先進国においては、これから迎える販売のピークに合わせて、お客様のご要望にお応えした、お求めやすい本体価格と印刷コストの両立を実現した新商品の投入と、インクジェットプリンターの特長である、低ランニングコスト、低廃棄物などの訴求を強化します。これにより、これまでの成長を支えてきたエマージング地域だけでなく、先進国でも大容量インクタンクモデルの販売を加速させていきます。
- 7月から、北米での販売プロモーションを開始しており、手ごたえを感じながらの販売が進んでいます。
- また、オフィス共有IJPでも、地域特性に合わせた取り組みを展開していきます。インクジェットの印刷性能を生かした業種別ソリューションの展開と、低メンテナンスコストを生かしたディーラー網の整備を進めることで、販売拡大を見込んでいます。
- 日本で進めている、文教市場向けの活動も、順調な商談獲得につながっています。ラインアップ拡充による、中長期の成長を視野に入れた活動を進めながらも、足元の案件は確実に取り込んでいきます。
- 商業・産業IJP、プロジェクターは、中長期の戦略に沿って着実に成長を継続させます。
- 本日ニュースリリースした、エレファンテック株式会社との資本業務提携は、インクジェット印刷のエレクトロニクス分野への応用や、インクジェットヘッドの産業利用の加速を目指すものです。
- ロボットは、第1四半期は厳しいスタートとなりましたが、第2四半期以降の需要を確実に獲得するとともに、中長期での成長を目指し、自動化要求に応えるソリューション提案に取り組みます。

2019年度 通期予想 | 事業セグメント別



- こちらは、売上収益、事業利益のセグメント別内訳です。
- 以降のスライドで、セグメント別にご説明します。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	7,236	7,510	7,510	+273	-
プリンター	5,059	5,130	5,130	+70	-
構成比 IJP	84%	84%	84%		
SIDM	8%	7%	7%		
その他	8%	9%	9%		
プロフェッショナルプリンティング	1,980	2,170	2,170	+189	-
その他	197	210	210	+12	-
事業間売上収益	-1	0	0	+1	-
セグメント利益	945	870	870	-75	-
セグメント利益率	13.1%	11.6%	11.6%		

17

- プリンティングソリューションズの通期予想はご覧の通り、期初予想から変更ありません。
- 第1四半期の大容量インクタンクモデルの販売は、アジアを中心に想定に対して軟調な推移となりましたが、6月度は前年同期を超える水準にまで回復しています。
先進国では、先ほどご説明した北米での販売プロモーションの反応も良く、これからの新商品投入に向けて、順調なスタートを切ることができました。
- これらの状況を踏まえ、大容量インクタンクモデルの販売は、期初予想と同じく、前期比120万台増加の1,020万台を目指します。
- それ以外の商品に関しても、期初予想から変更ありません。
- セグメント利益も、期初予想から変更ありません。
なお、プリンター事業が占める割合は4割半ば程度となります。

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	2,033	2,110	2,110	+76	-
セグメント利益	212	220	220	+7	-
セグメント利益率	10.4%	10.4%	10.4%		

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	前期比	前回予想比
売上収益	1,634	1,700	1,700	+65	-
ウェアラブル機器	498	500	500	+1	-
ロボティクスソリューションズ	226	260	260	+33	-
マイクロデバイス他	966	990	990	+23	-
事業間売上収益	-58	-50	-50	+8	-
セグメント利益	55	90	90	+34	-
セグメント利益率	3.4%	5.3%	5.3%		

18

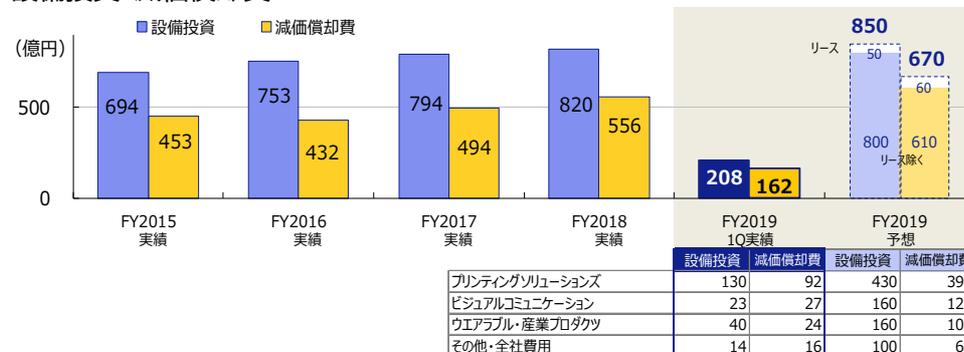
- ビジュアルコミュニケーションも、期初予想から変更ありません。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、厳しい環境が継続することが見込まれますが、第2四半期以降の需要を確実に取り込むとともに、費用の適切なコントロールにより、期初予想から変更ありません。

主要費用・設備投資

研究開発費



設備投資・減価償却費

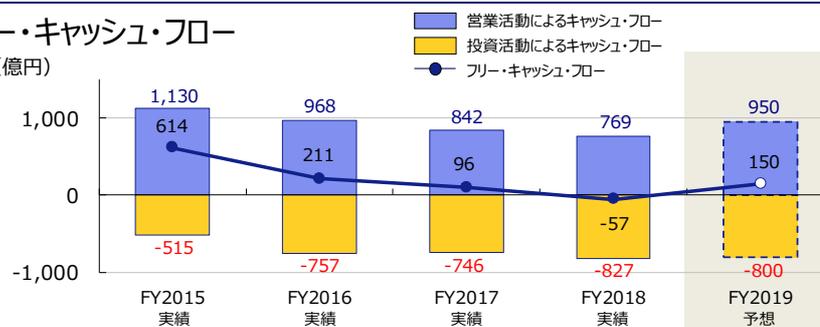


- 研究開発費、および設備投資、減価償却費の実績ならびに予想は、ご覧のとおりです。
- 通期予想に変更ありません。

フリー・キャッシュ・フロー/主な経営指標

フリー・キャッシュ・フロー

(億円)



主な経営指標

(%)

	FY2015 実績	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 予想
ROS 売上収益 事業利益率	7.8	6.4	6.8	6.5	5.8
ROA 資産合計 事業利益率	8.7	6.9	7.4	6.8	6.1
ROE 親会社所有者帰属持分 当期利益率	9.5	10.1	8.3	10.2	8.2

20

➤ フリー・キャッシュ・フローおよび主な経営指標も予想に変更はありません。

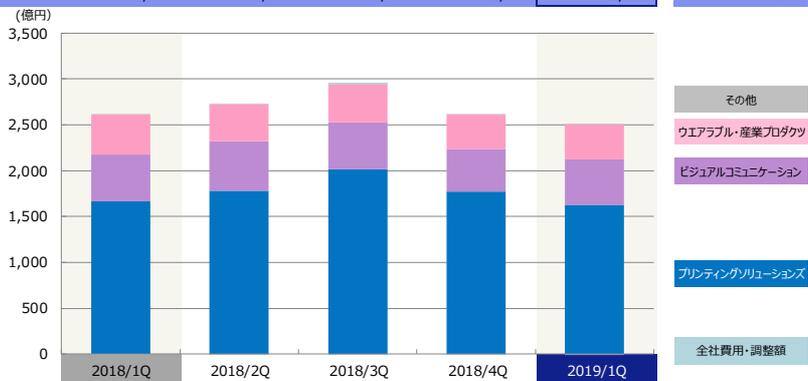
➤ 以上

補足資料

四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別

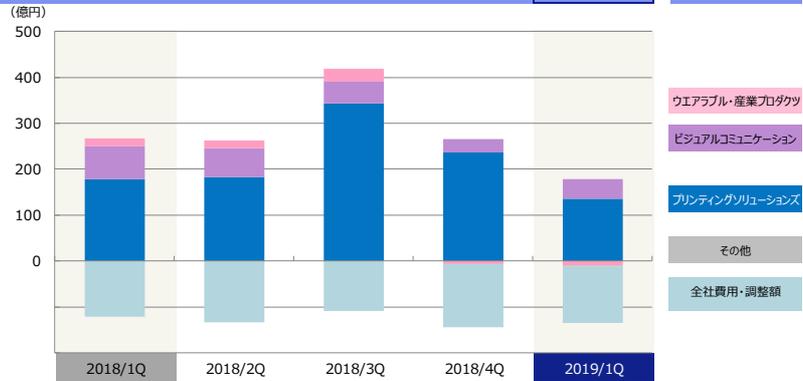


為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	+0.87
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	-6.55
売上収益 (億円)	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	前年同期比	
プリンティングソリューションズ	1,666	1,780	2,017	1,772	1,632	-34	
ビジュアルコミュニケーション	514	539	510	468	492	-21	
ウェアラブル・産業プロダクツ	431	409	419	374	381	-50	
その他	2	2	2	2	2	+0	
全社費用・調整額	-9	-13	17	-11	-11	-2	
連結合計	2,604	2,719	2,966	2,606	2,496	-108	



四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別

為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	+0.87
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	-6.55
事業利益 (億円)	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	前年同期比	
プリンティングソリューションズ	179	183	344	237	136	-42	
ビジュアルコミュニケーション	71	63	47	29	43	-27	
ウェアラブル・産業プロダクト	17	16	27	-6	-10	-27	
その他	-1	-0	-1	-0	-2	-0	
全社費用・調整額	-120	-134	-108	-138	-123	-3	
連結合計	146	127	309	121	45	-101	



海外売上収益・従業員数

海外売上収益

為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	+0.87
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	-6.55

売上収益 (億円)	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	前年同期比
米州	755	821	770	757	745	-9
欧州	528	520	636	566	479	-49
アジア・オセアニア	792	794	761	675	725	-66
海外売上収益計	2,076	2,137	2,168	1,999	1,951	-125
連結合計	2,604	2,719	2,966	2,606	2,496	-108

構成比	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q
米州	29.0%	30.2%	26.0%	29.1%	29.9%
欧州	20.3%	19.1%	21.5%	21.7%	19.2%
アジア・オセアニア	30.4%	29.2%	25.7%	25.9%	29.1%
海外売上収益計	79.7%	78.6%	73.1%	76.7%	78.2%

従業員数

期末従業員数 (人)	2017/3末	2018/3末	2018/6末	2019/3末	2019/6末	前期末比
国内	19,175	19,436	19,704	19,456	19,879	+423
海外	53,245	56,955	61,196	57,191	58,918	+1,727
連結合計	72,420	76,391	80,900	76,647	78,797	+2,150

主な業績指標

(億円)

	項目	FY2018 実績	FY2019 予想	FY2021 第2期中計目標
為替レート (円)	USD	110.86	110.00	110.00
	EUR	128.40	125.00	125.00
プリンティング	売上収益	7,236	7,510	7,800
ソリューションズ	セグメント利益	945	870	-
ビジュアル	売上収益	2,033	2,110	2,250
コミュニケーション	セグメント利益	212	220	-
ウェアラブル・ 産業プロダクト	売上収益	1,634	1,700	1,950
	セグメント利益	55	90	-
その他	売上収益	9	10	-
	セグメント利益	-5	-10	-
全社・調整額	売上収益	-16	-30	-
	セグメント利益	-502	-520	-
連結合計	売上収益	10,896	11,300	12,000
	事業利益	704	650	960
	ROS	6.5%	5.8%	8%
	ROE	10.2%	8.2%	継続的に10% 以上

(億円)

項目	FY2018 実績	FY2019 予想	Epson 25 第2期3年累計 目標
USD	110.86	110.00	110.00
EUR	128.40	125.00	125.00
営業CF	769	950	3,700程度
FCF	-57	150	1,700程度
研究開発費	582	560	積極的に投下
設備投資	820	850	
リース除く	820	800	2,000程度

主要製品の販売動向

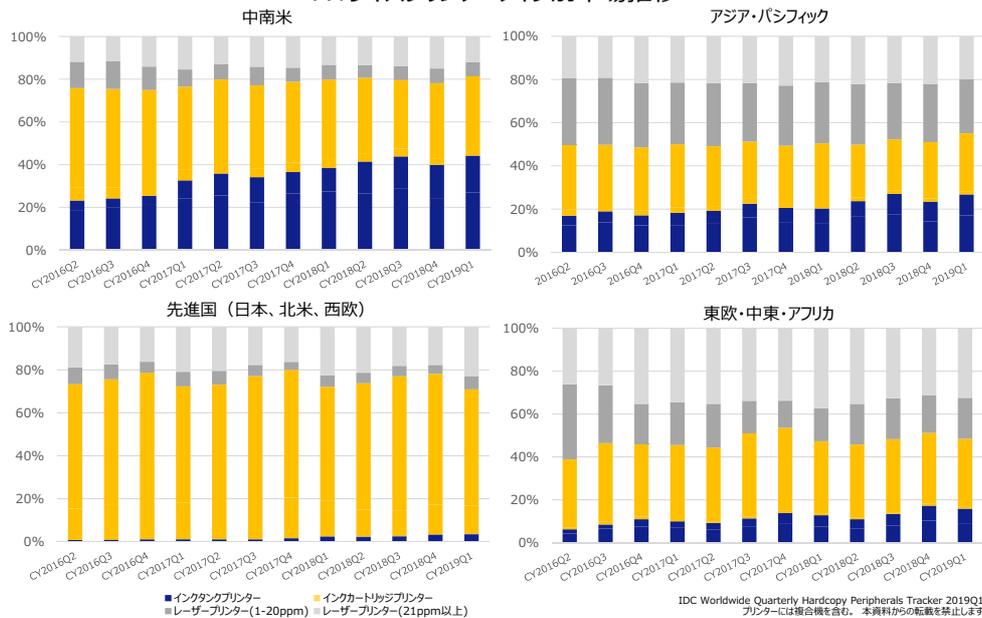
本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。伸長率はYoY

* オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンター
I/Cモデル、RIPS、LIIの本体・インクを含む。役務・有償サービスは除く

				FY2018 通期 実績	FY2019 1Q 実績	FY2019 通期 予想
		USD		110.86	109.93	110.00
		EUR		128.40	123.54	125.00
プリンティング ソリューションズ	IJP 本体	売上収益（円貨）	伸長率	前期並み	-6%	+11%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-2%	-
		本体数量	伸長率	-4%	-7%	+5%
		本体数量	台数	約1,540万台	-	約1,620万台
		内 大容量インクタンク	台数	約900万台	-	約1,020万台
		内 SOHO・ホーム	台数	約610万台	-	約560万台
	IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比	約50%	-	46%
		売上収益（円貨）	伸長率	-1桁%台後半	-9%	-6%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-8%	-
	オフィス共有IJP* 本体+インク	IJP内売上収益比率	構成比	1桁%台後半	8%	10%
	SIDM 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-1桁%台後半	-15%	-8%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-12%	-
本体数量		伸長率	-6%	-14%	-5%	
商業・産業IJP 本体+インク	プロフェッショナルプリンティング 事業内売上収益比率	構成比	60%台前半	63%	65%	
ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益（円貨）	伸長率	+1桁%台前半	-4%	+4%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-1%	-
		本体数量	伸長率	+1%	-8%	+4%
		本体数量	台数	約260万台	-	約270万台

大容量インクタンクモデルの浸透（数量構成比）

A4サイズプリンタータイプ別市場推移



Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター（複合機含む）
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printers
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル, RIPS, LIJを含む
フォト	フォト、グラフィックス、プルーフ、CAD印刷向け大判プリンターなどが含まれる
商業・産業IJP	商品カテゴリの1つ。商業・産業用途向け大判インクジェットプリンター
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル（RIPS）、高速ラインインクジェット（LIJ）の総称
分散印刷	同一内容の印刷物を複数のプリンターを用いて印刷する方法
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode（有機EL）
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

イノベーション	インクジェットイノベーション	ビジュアルイノベーション	ウェアラブルイノベーション	ロボティクスイノベーション	
セグメント	プリンティングソリューションズ	ビジュアルコミュニケーション	ウェアラブル・産業プロダクト		
事業 ・ 主要製品	<p>プリンター</p> <p>大容量インクタンクモデル</p> <p>SOHO・ホーム</p> <p>インカードラッジモデル</p> <p>オフィス共有</p> <p>大容量インクパックモデル(RIPS)</p> <p>高速ラインインクジェット複合機 (LII)</p> <p>オフィス向けインカードラッジモデル</p> <p>SIDM PaperLab スキャナー レーザープリンター</p> <p>プロフェッショナルプリンティング</p> <p>商業・産業IJP POS</p> <p>フォト サイネージ テキスタイル ラベル ヘッド外販</p> <p>PC他</p> <p>エプソンダイレクトPC</p>	<p>プロジェクター</p> <p>高光束</p> <p>超短焦点</p> <p>スタンダード・ホーム</p> <p>小型 ライティング</p> <p>スマートグラス</p> <p>光学エンジンモジュール</p>	<p>ウェアラブル機器</p> <p>エプソンブランド</p> <p>TRUME</p> <p>オリエント</p> <p>ムーブメント</p> <p>セイコービジネス</p>	<p>ロボティクスソリューションズ</p> <p>ロボット</p> <p>6軸</p> <p>自律型双腕ロボット</p> <p>ICハンドラー</p> <p>オプション</p>	<p>マイクロデバイス他</p> <p>マイクロデバイス</p> <p>水晶</p> <p>半導体</p> <p>微細合金粉末</p> <p>表面処理加工</p>

EPSON
EXCEED YOUR VISION